

商品名 ファーストシン静注用1g 医薬品基本情報

薬効	6132 セフェム系抗生物質製剤	一般名	セフォゾプラン塩酸塩静注用
英名	Firstcin	剤型	静注用
薬価	927.00	規格	1g 1瓶
メーカー	武田テバ薬品	毒劇区分	

ファーストシン静注用1gの効能・効果

敗血症、(外傷、熱傷、手術創)の二次感染、咽頭炎、喉頭炎、膿胸、肺炎、肺膿瘍、扁桃周囲膿瘍、扁桃炎、慢性呼吸器病変の二次感染、角膜潰瘍、化膿性髄膜炎、化膿性唾液腺炎、肝膿瘍、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、腎盂腎炎、全眼球炎、複雑性膀胱炎、胆管炎、胆嚢炎、中耳炎、副鼻腔炎、腹膜炎、眼窩感染、腹腔内膿瘍、前立腺炎＜急性症＞、前立腺炎＜慢性症＞、角膜炎、眼内炎

ファーストシン静注用1gの使用制限等

1. 本剤成分又は含有成分で過敏症の既往歴	記載場所	使用上の注意
	注意レベル	禁止
2. 高度腎機能障害のある高齢者、クレアチニンクリアランス値：30mL／分以下の高齢者	記載場所	用法・用量
	注意レベル	慎重投与
3. 高度腎障害、クレアチニンクリアランス値：30mL／分以下、高度腎機能障害のある高齢者、クレアチニンクリアランス値：30mL／分以下の高齢者	記載場所	使用上の注意
	注意レベル	慎重投与
4. 類薬で過敏症の既往歴、アレルギーの家族歴、気管支喘息の家族歴、蕁麻疹の家族歴、発疹の家族歴、アレルギーを起し易い体質、気管支喘息を起し易い体質、蕁麻疹を起し易い体質、発疹を起し易い体質、経口摂取の不良、全身状態の悪い、非経口栄養、高度肝障害	記載場所	使用上の注意
	注意レベル	注意

ファーストシン静注用1gの副作用等

1. 溶血性貧血、痙攣、中枢神経症状	記載場所	重大な副作用
	頻度	頻度不明

2. 顆粒球減少、血小板減少	記載場所	重大な副作用
	頻度	5%未満
3. ショック、アナフィラキシー、不快感、口内異常感、眩暈、便意、耳鳴、発汗、喘鳴、呼吸困難、血管浮腫、全身潮紅、全身蕁麻疹、急性腎障害、重篤な腎障害、汎血球減少、無顆粒球症、偽膜性大腸炎、血便、重篤な大腸炎、腹痛、頻回の下痢、発熱、咳嗽、胸部X線異常、好酸球増多、間質性肺炎、PIE症候群、中毒性表皮壊死融解症、Toxic Epidermal Necrolysis、TEN、皮膚粘膜眼症候群、Stevens-Johnson症候群、DIC、著しいAST上昇、著しいALT上昇、肝炎、肝機能障害、黄疸	記載場所	重大な副作用
	頻度	0.1%未満
4. AST上昇、ALT上昇	記載場所	その他の副作用
5. 過敏症、発疹、蕁麻疹、紅斑、そう痒、発熱、貧血、好酸球増多、血小板増多、ALP上昇、LDH上昇、γ-GTP上昇、悪心、嘔吐、食欲不振、腹痛、腹部膨満感、下痢、高カリウム血症、血清アミラーゼ上昇	記載場所	その他の副作用
	頻度	5%未満
6. リンパ腺腫脹、関節痛、菌交代症、口内炎、カンジダ症、ビタミンK欠乏症状、低プロトロンビン血症、出血傾向、ビタミンB群欠乏症状、舌炎、食欲不振、神経炎、頭痛、倦怠感	記載場所	その他の副作用
	頻度	0.1%未満
7. 急性腎障害、重篤な腎障害	記載場所	使用上の注意
	頻度	頻度不明
8. 発疹、肝機能異常、ビタミンK欠乏症状、高い血中濃度が持続、出血傾向、血管痛、血栓性静脈炎	記載場所	使用上の注意
	頻度	頻度不明

ファーストシン静注用1gの相互作用

- 薬剤名等：利尿剤

発現事象	他のセフェム系抗生物質で併用による腎障害増強作用	投与条件	-
理由・原因	利尿時の脱水による血中濃度の上昇	指示	注意

ファーストシン静注用1gの配合変化

- 薬剤名等：ブロムヘキシン塩酸塩製剤

発現事象	配合直後に混濁	投与条件	-
理由・原因	-	指示	禁止

- 薬剤名等：ジフェンヒドラミン塩酸塩・臭化カルシウム製剤

発現事象	1時間以内に混濁	投与条件	-
理由・原因	-	指示	禁止

3. 薬剤名等：フルオロウラシル製剤

発現事象 残存力価が90%以下になる

理由・原因 -

投与条件 -

指示 注意

4. 薬剤名等：クリニタミン注

発現事象 残存力価が90%以下になる

理由・原因 -

投与条件 -

指示 注意

5. 薬剤名等：他剤

発現事象 pHが8以上では力価の低下が促進

理由・原因 -

投与条件 -

指示 注意

